

支援事例

商工会名	菊陽町 商工会	氏名	井上 知揮	情報開示の可否	可
支援テーマ	販路拡大・販路支援	題名	外国人が「日本」「日本食」の良さを感じられる「体感型飲食業」の構築事業		
	資金繰り				

<支援企業の概要>

事業所名	きら星	従業員	6	人	創業/ 会社設立	創業日	2014年2月1日
業種	飲食業	うち家族従業員	1	人		業歴	11年1ヶ月

○企業概要

菊陽町にあるソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)の社員向けに弁当を製造し、社員食堂で販売している。事業の特徴としては、地元の旬の食材を多く取り入れ、手作りにこだわった弁当を提供している。安さとボリュームも好評で若い社員を中心に人気があり、出入りの弁当店の中では最も販売数が多い状況である。再構築補助金を活用して、業種変更、古民家カフェ&バー“yoyn（よいん）”を新たにオープン。

○支援のきっかけ（相談内容）・支援前の課題

【支援課題・支援計画】

（支援課題）物価高騰等によって食材が値上がりしているが、社員向けの弁当では価格転嫁が厳しく、付加価値が高い飲食店への補助金を活用した事業の再構築が必要。

（短期計画）再構築補助金による飲食店新規開業（中長期計画）新事業の拡大、法人化及び規模拡大

（現状分析）・強み→弁当作りで培った調理技術、創作力、食材活用のノウハウがある。長男（台湾留学で英語、台湾語に堪能）が事業参加。

- ・弱み→弁当製造は早朝からの対応が必要であり、その結果人材が集まりにくく人手不足
- ・機会→本町への台湾半導体大手TSMC進出の影響により、今後、台湾の方を含む住民の増加、交流人口の増加

◎強み活かし機会捉え⇒「外国人（台湾人）にも良さを感じてもらえる和モダンの古民家カフェを開店」

○支援内容および支援後の状況・効果

再構築補助金の事業内容としては、築50年の日本家屋（古民家）を和モダン風に改装し、外国人が「日本」「日本食」の良さを感じられる「体感型飲食業」を新たに展開。台湾においても好評である古民家カフェをイメージし、古民家の風合いを活かした和風テイストの中にもモダンな家具を配置し、居心地の良い空間を演出する。古民家とモダンな家具はSNSにおいても近年人気であり、写真や動画を撮影したくなるようなインテリアで構成することとした。事業計画策定に当たっては、担当の特任指導員にも協力いただき、3回の専門家派遣を活用して、繰り返しブラッシュアップを行った。その結果、当事業計画が採択となり、事業実施に向けて交付申請の支援を行った。事業計画策定時よりも、改装費が値上がりし、変更を余儀なくされる部分はあったが事業者に寄り添った伴走型支援を行い、交付決定に至った。事業実施の必要資金も増えたため、事業実施のため国金のマル経融資を利用することにし、限度額いっぱい2千万円の資金を調達した。そして、当初計画より遅れはしたが令和6年9月15日に無事もオープンすることができた。オープンして間もないため、売上等の効果は未確認ではあるが、来店した台湾の方にも好評である。

○今後について（目標や課題など）

当店は住宅地の中の隠れ家的な場所であり、今後は、積極的にSNSなどで情報発信し集客に努める。くまもと物産フェアの「台湾グルメコーナー」にも出店する。

